１１７「社内報」

２０１３年１月、嘱託期間が終わり年金を満額受給できる年齢（６４歳）となり、長い間勤めて来た建設会社を完全に退社した。退社を機に会社との直接の繋がりは切れ、ＯＢ会に入会し終身会員となった。ＯＢ会の会員になると、社員全員に配布されている「社内報」と「ＯＢ会会報」が定期的に送られてくる。

社内報は次のような構成となっている

（１） トピックス　代表的な竣工建物の紹介
（２） 会社の新しい動き　「ＳＤＧ’ｓ」「脱炭素社会」「自然共生社会」などへの取り組み
（３） 新任役員の紹介、就任挨拶
（４） 各事業本部の活動　例えば、某支店“地元小学生対象に現場見学会を実施”など
（５） 竣工工事紹介　全国から、竣工した建物や施設などを写真とともに紹介
　　発注者，工期，構造・規模、設計担当者や施工担当者からの一言
（６） 営業所紹介　営業所の歴史や特徴など、メンバー全員の写真とともに紹介
（７） 若手奮闘記　全国でがんばる若手社員の紹介
（８） 表　彰　　社外顕彰，社内顕彰，各種貢献や功労者への感謝状
（９） 採用，退職，資格取得者などの紹介

「社内報」が送られてくると、どんな建物が竣工したのか、などに興味を持って見ている。その建物の担当者に、自分の知る名前があると親しみが湧き、彼はこんな建物を担当していたのだなと懐かしく思いだす。また、定年退職した人は顔写真入りで出るので“ああ、彼は退職したのか、、、”と流れた年月を思う。しかし、会社を離れて８年も経過すると、知っている人が徐々に少なくなり、少しずつ関心が薄れて行くのは仕方ないことかも知れない。

「ＯＢ会会報」は季刊で、最初に見るのは“訃報”である。現役時代にお世話になった方々の訃報はやはり知っておきたい。付き合いの深かった人の場合、メールなどで連絡が来れば葬儀に伺うこともある。他にも、地域の支部ごとに行われる行事や会合の報告、メンバーのメッセージ（一言通信）などが掲載される。メッセージの中に、知った名前があれば懐かしく思いだし、元気で過ごしていることが知れて嬉しい気持ちになる。さらに、会員の寄稿文の中には、年輪を感じさせ読み応えがあるものが多く、興味深く読ませていただいている。

定年退職して仕事を離れても、社会や地域，旧知の人々との繋がりは大切である。現役時代、本社勤務では東京に通勤していたし、支店勤務で九州と関西に合わせて１０年間住んでいた関係で、地域の人々との付き合いはほとんどなかった。退職少し前に自治会役員を務めたことで、地域の人々との繋がりもでき、顔見知りも増えた。自治会では節目ごとに懇親会が行われ、話す機会があったが、話題が合わないことが多く馴染むまでに至らなかった。

そんな中、大学校友会の方から誘いを受けた。早稲田大学の校友会は全国各地に多く、私の住んでいる市原市にも「市原稲門会」があり誘われるままに催しに参加した。

市原稲門会は、２００７年に発足し１４年経過。私の入会は６年ほど前で比較的新しい会員である。大学の校友会なので、会員相互の親睦が第一、それと地域社会，大学の発展に寄与することなどが目的

である。会員対象は卒業生主体であるが、やはり退職者が圧倒的に多く、大学ＯＢの老人会といったところだ。会員数は減少気味で現在１００名ほど。県内に数ある稲門会の中では活発に活動している方だ。

行事としては以下の３つの催しが主なもの

・１月　新年会　　（年頭あいさつ、クラシック音楽主体の演奏会と懇親会）

・６月　通常総会　（総会での決議と講演会、終了後の懇親会）

・８月　納涼懇親会（講演、軽音楽主体の演奏会と宴会）

この他に、３月には「花見の宴」もあり、野外 桜の下で車座になり歓談する。

演奏会は比較的ハイレベルで、プロの演奏も聴くことができる。現役学生の落語同好会メンバーが来てくれたこともあり、バラエティに富み楽しめる。また、国会議員が顔を見せ、挨拶かたがた“こぼれ話”を聴くこともある。

充実しているのは教養・娯楽面である。定番のゴルフ，囲碁，マージャン，カラオケ，釣りなどの他、紅葉ハイキング，歴史探訪，スポーツ応援（野球・ラグビー・箱根駅伝などを応援)、裁判見学会という珍しい企画もある。女性会員だけの食事会もあり、自由参加で自分の好きなことをすればよい。

私は、上記３つの主な催しにはすべて出席、紅葉ハイキング，歴史探訪もほとんど参加している。娯楽関係ではマージャンと釣りに積極参加、箱根駅伝の応援にも行ったことがある。

２年前から役員となり、役員会議事録の作成を行うなど徐々に関わりが深くなってきた。各種行事は年４回発行される“会報”に掲載され会員に伝えられる。

私は会報の「会員紹介」を担当しており、会員宅に伺いインタビュー形式で話を聴き、仕事や家族など含めさまざまな経験や人生模様などをまとめる。少しでも読み応えのあるものにしたいので、紹介文の作成はほとんど一日がかりである。

現在コロナの影響で、多くの催しが自粛せざるを得ない状況である。オンラインでの講演会や情報交換の他、辛うじて屋外で行うゴルフと釣りが行われる程度だ。そんな状況なので、会員相互の繋がりを維持するため「会報」に力を入れながら活動しているのが現状である。

いろいろな集まりがある中で、私にとっては、この市原稲門会が一番合っていると感じている。強すぎず弱すぎない、ほどよい距離感での付き合いも心地よい。これからも、自分の得意なことで会の活動に協力できればと思っている。（２０２１．１２．２０）